



こうべ森の学校だより

No.63
2015年3・4月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

2015年度スタートに際して

こうべ森の学校 代表 木下 英吉



この度、こうべ森の学校「以下、学校」代表を拝命しました。私が入学したのは、2013年1月例会です。当時は、2011年3月に起きた東日本大震災支援活動や、同年9月台風12号で甚大な被害が起きた奈良県十津川村に、山道等の普

請で入っていて現在も続いています。たまたま新聞で学校の活動記事を見て、「山(森)の作業をもっと知りたい」との思いで参加しました。朝、再度公園に足を踏み入れた時、思いっきり呼吸をします(無茶苦茶、美味しい!!)、今日一日分を吸いだめです。澄みきった空気を吸い込んで、“ヨッシャー今日も元気で”モードに移ります。

まだ2年余の経験ですが、学校の活動は個人活動ではなくチームワークであることから、“安全とコミュニケーション”を重視します。改めて安全な活動を心掛けていただき、毎回出発時や活動中には、手元・周りに目配り・気配りをお願いします。森での活動は安全抜きには成り立たないし、万が一けがや事故が起これば、当人はもとより周りの仲間も痛みを伴います。

もう一つ“積極的にコミュニケーションを”です。森に親しむ等同じような思いを持つ仲間が集っているのですから、「おはよう、元気!?”から「またね!!」までの挨拶や会話を積極的に交していただきたいです。個人・

友人や職場等の仲間に参加され、それぞれの思いで関わられていると察します。ただ、学校では日頃の関係もさることながら、学校の仲間として協調・協働し、活動中「どうしたらいい?、手を貸して!?”などの時には、スタッフ(ヘルメットに白線が目印)や周りの仲間に声掛け・協力を仰いだりして、毎回1人でも2人でも新しい名前を増やしていただければ幸いです。

今年は学校創設から12年目を迎え、干支(十二支)を1巡することになります。これまで先輩方が培ってきた経験から、活動内容は森の手入れを始め、間伐材を活用した木工工作・炭焼きや自然・野鳥観察・育苗等幅広く、興味深いものになっています。この他にも会員みなさま(2015年3月現在160名)の中で、「こういうことも面白いよ」というのがあれば、気軽にスタッフまで提案してください。

また、2014年度の月例会からは手入れエリアを固定して、活動地の前後変化を実感しようとしています。この試みは、活動地を長い目で親しみを持って手入れしていただくよう、2015年度も継続します。

会員みなさまが安全に楽しく活動を続けられれば、結果、六甲山再度公園での活動を次代に繋げていくことができると思います。季節の移り変わりを体感できる森に身を置き、その時々発見・感動等を仲間と共有しながら活動できることは、とても幸せです。私は“初心を忘れず、毎回若葉マーク”の気持ちで、仲間との活動に臨み続ける所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。



森学代表を辞するに当たって

東郷 賢治



過日 古いビデオに写っている自分を見て、「こりゃ随分と若いワ」と思っていると隣で見ていた仲間が全く同じ感想を発言されました。せいぜい3年程前の映像ですが、フィルムは正直です。最近 私は体力の衰えを感じるようになりました。「毎日二万歩」を努力はしていますが、気力だけでは支えきれないようです。

私が代表をお引き受けしたのは2007年11月ですから7年余務めさせて頂いたこととなります。学生時代から山岳部であって、穂高や剣の岩場でザイルを組み、豪雪の中ラッセルを強いられながら、山頂を目指していました。当時は森や草原は私の視野にありませんでした。自然の深い懐こそが我が生きる場なんて考えていました。だから、森の手入れ等についてはボランティアに関わり始めてから学んだこととなります。たかだか10年余りで、私はズブの素人です。なのになぜ代表を受けたのか。男気か？煽てに乗ったのか？思慮が足らなかったことだけは間違いなさそうです。が、風楽山荘を建てている頃はズッポリと首まで森学に浸かっており、六甲の森を守り、育てることの大切さ、素晴らしさ、楽しさ、自ら100年の森づくりを背負っているような意気込みでした。何よりも同好の仲間と一緒に汗を流し、議論し、酒を飲み、鉋や鋸を使った活動に大きな意義を感じていました。若い頃から歩み続けた道に、ひと区切りをつけた会員の方からは学ぶべきものが多くありました。また、指導者にも恵まれました。味わい深い方々ばかりでした。森学 私にとっては新たな友や師を得て、新鮮な活動の場であり、生きがいの日々でもありました。

私が代表として常に心掛けたことの一つが「和」と言うことでした。さまざまな考えや経験・人生観の異なる人達が造る森学と言う環にあって、一緒に森を守り、育てていこうと言う活動をするには、互いに心を開き、相手の考えを知り、その経験から学び、彼の人生観に思いを寄せることによって、仲間との和を育み、絆を大切にすることで森学と言うパワーを創りだせないかと考えてきました。風楽山荘を立ち上げていく過程ではそれぞれの持てる力や経験が生かされ、歯車が上手くかみ合って、

立派な山荘が完成しました。

いま一つが「安全」と言うことでした。森での活動にはさまざまな危険が指摘されています。改めて述べるまでもなく、誰もが見聞きするだけでなく、大小はあってもこれまでに「ハッ」と言う経験をされていませんか。

恥ずかしいことですが、私も鉋で左手親指の爪を二つに叩きました。傷は一生消えません。自らの不注意と軽率さを反省しています。そんなこともあって、会員の皆さんに「ヒヤリハット」の経験を書いてもらって、森学だよりを通じ、少しでも事故防止に繋がっていけばと呼びかけていますが、原稿は思うように集まりません。これまた私の安全衛生委員長は正に失格です。

いま一つ私の夢ですが、森学の将来についてかねがね思っていることですが、地図で見ますと六甲山は東西に長い山並みに連なっています。再度山はほぼ中ほどに位置していると言えましょう。一方、会員は東は尼崎・西宮から西は明石・東播磨に及んでいます。そこで、いつも再度公園まで足を運ばずに、六甲山のあちこちに森学の分校が出来ないものかと考えています。本校の再度山で十分な技量を習得し、経験を積み、リーダーとして相応しい方を中心に小人数で機動性に富んだグループを立ち上げ、六甲山の市有地で手入れを必要とする森は幾つもあります。そこでよく練られた年間計画をもとに、時間をかけ、コツコツと手入れする。年に何度かは本校の例会にも出席し、一緒に森の手入れなどを追体験する。

また、森学だよりにその成果を発表したり、グループ毎の交流でその活動過程を共有し、話し合う。地域や構成メンバーによる柔軟性と特色が生かされ、森学全体の活動が活性化するのではなからうかと考えています。実現までにはさまざまな角度から検討することは勿論、森林整備事務所や支援して下さる企業とも話し合い、相応しい体制づくりが必要でしょう。私案として話題を提供し、会員の意向が深められるならば、新しい絵に描いて行くのも良いのではないのでしょうか。

こうべ森の学校 創成期の一定期間を代表として務めさせて頂きましたが、これからは新しい世代の方々に次々とバトンを渡していただき、さらなる六甲山のみどり100年の歴史を刻んでいただくことを心から願わずにはおれません。

私はいま代表を辞しますが、組織の一員として微力ですが、一緒に活動させて頂きます。これまでに寄せられたご支持・ご指導に感謝いたします。有難うございました。

二つの震災と向き合って20年

ひょうごボランタリープラザ 災害支援アドバイザー 高橋守雄

こうべ森の学校の皆様、「ひょうごボランタリープラザ」の高橋守雄です。平素から森学スタッフの木下さんや村上（文）さんには災害ボランティアの主要メンバーとして、東日本大震災の被災地支援をはじめ、国内で頻発する災害の被災地でのボランティア活動にご尽力頂いており、本当にありがとうございます。

阪神・淡路大震災が「ボランティア元年」と言われるように、多くのボランティアに助けられて、今日の創造的復興を遂げて参りました。当プラザは、平成14年に兵庫県がNPO活動やボランティア活動の支援拠点として、また、災害ボランティアの派遣拠点として設置し、毎年のように各地で頻発する災害に、多くのボランティアを当プラザのチャーターバスで派遣して参りました。



名取市関上・日和山で、桜を植樹

特に東日本大震災では、地震発生後の1週間後、井戸敏三兵庫県知事を先頭に、医療団やNPO・ボランティアの代表者や報道陣など大型バス4台に分乗し、片道900km・13時間をかけて、被災地の宮城県松島町へ支援に入りました。この4年間で計173回・263台・6,112名のボランティアに、東北被災地3県で活動をして頂きました。私自身もバスで毎月のように被災地に赴き、直近の被災者のニーズや復旧状況を把握して、被災地に寄り添う支援に取り組んで参りました。今年3月11日で4年が経過しましたが、被災地には「心の支援」・「寄り添う支援」が、孤立無援化・風化する中で最も必要な事ではないかと痛感しています。

阪神・淡路大震災発生時に、兵庫県災害対策本部で広報担当をして以降20年間、東日本大震災など、常に震災と向き合って参りました。この間、多くのボランティ



アや素晴らしいスタッフに恵まれて、当プラザで10年がアット言う間に過ぎ去りました。後継者も育ち、阪神・淡路大震災から20年が過ぎた今春で、当プラザを卒業する決断を致しました。東日本の復旧・復興の道半ばで去るのは心苦しい気持ちですが、今後は個人ボランティアとして参加し支援は継続し、結ばれた「絆」をより強固にしていく所存であります。

幸い大学から講師や非常勤講師として招かれていますので、若い学生の皆さんに二つの震災とボランティア活動の必要性を語り継いでいきたいと思います。また、災害ボランティア活動に伴う経費削減の取り組みを進める「災害ボランティア割引制度を実現する会」の代表は、引き続き引き受けて、災害ボランティアを支援する社会・環境づくりに邁進して参ります。

これまでご支援・ご協力頂きました「こうべ森の学校」及び関係者の皆様に感謝申し上げますと共に、貴校の益々の発展をお祈りしています。

ありがとうございました。



平成26年8月23日兵庫県森林ボランティア講座で講義

六甲の花散歩 (その 38) — ヤマモモ — (山桃)

ヤマモモ科 (ヤマモモ属)

神戸市立森林植物園 福本 市好

春の訪れは3月下旬ともなると、それぞれの木々の枝先に見られ日増しにその変化が感じられます。もちろん種類によって早い遅いはありますがどの木にも柔らかな芽吹きが特徴的で、先に花が咲くものや、花と葉を同時に咲かせるタイプ、先に葉を出してから花を咲かせるものなど様々です。その瑞々しさと躍動感に清々しい気持ちになります。

今年の春は3月下旬に初夏のような気温になり、一気に季節の到来とばかりソメイヨシノはじめ多くの花が一斉にほころびた始めた矢先、4月に入ってすぐに雪が降るといふ冬に逆戻りしたような日となりました。

朝、六甲の山なみが白くなっていたのには驚きましたが、この頃には“寒の戻り”とか“花冷え”とか言われるような冬の気温に戻る日があると、昔からよく言われています。毎年、季節の訪れ方には (写真-1) ヤマモモの全景



前置きが長くなりましたが、今回はヤマモモを紹介いたします。漢字では山桃と書くのですが山に生える野生の桃の意味ではなく、もちろんバラ科の植物でもありません。

ヤマモモは六甲山地にも自生している常緑広葉樹の高木ですが、その分布は須磨、塩屋、多井畑、保久良山などに多く見られます。また、寺や神社などには大木が見られますが特に海岸近くの低山で乾燥した尾根などの痩せ地でも生育できる木です。痩せ地で栄養分の乏しい環境 (写真-2) 樹皮と樹幹



ヤマモモは梅雨頃にたくさんの濃い赤紫色の果実がなります。雌雄異株でももちろん雌木にしか実が付きません。子供の頃には口にされた方も多いのではないのでしょうか。私はこの実を食べた記憶がなかったのですが、須磨離宮公園に勤務していたころ、そこにはたくさんのヤマ

モモの木があって初めて食べたときの印象は少し酸っぱくて甘みがありおいしかったです。丸いイチゴのようなその実が熟して落ちると園路や広場が赤くなり、その頃はその



(写真-3) 成葉と雄花穂 香りがあたり一面に匂っていたことを思い出します。この実を採取するときは実の中にはやや大きめの丸いタネがあり、落ちて実を踏んだりすると滑ることがありますので注意が必要です。

また、ヤマモモで思い出すことは森林植物園で神戸の植物化石展をするために植物化石を採集に行った時のことです。植物化石の研究者である堀治三朗氏に案内されて、白川や藍那駅付近に行き神戸層群 (約 3500 万年前) の地層を調査していた時に出てきた現生のヤマモモの若い (写真-4) 雌花穂



葉のような植物化石と出会ったときです。それはヤマモモ科コンプトニア属のもので神戸からの産出は珍しいものでした。他にはメタセコイア、フウの仲間、ブナ科をはじめ、現在も生きている植物と思われる多くの種類の植物化石を見つけるたびにすごく感激したものです。

そして、そんな太古の時代から生えていたヤマモモの祖先の姿を思い浮かべながら今も進化しながら？生きている“植物のすごさ”には驚くばかりです。ところで私たち人間は昔から季節の訪れを植物や動物、野鳥など身の回りの生き物たちを観察するなかで季節の変化を察知し、農作業をはじめ多くの営みの指標にしてきたのですが、今日では日々の気象情報や季節の変化、身近な自然の動きや多くの情報を簡単に得ることができる便利な時代になりました。



(写真-5) 熟した果実

しかし、その反面、私たちは身のまわりの身近な自然の変化を感じる観察力や察知する能力などが衰えてきてはいないだろうか……そんな危惧も感じながら日々、森林植物園で自然の変化と向き合っています。

六甲の野鳥撮影の記録 (その 7)

日本野鳥の会会員 村瀬 眞一郎
全日本写真連盟会員

今回は、これまで載せられなかった野鳥について、紹介します。サンコウチョウ以外は、いつでも見ることができます。

[キジバト]

この写真のように雌雄2羽で見ることが多いです。体は灰褐色で翼や背中に茶色のうろこ模様があります。デデポッポー



キジバト

と鳴きます。駅や公園にいるハトはドバトと言いつ別の種類です。ドバトは飼われていたハトが野生化したもので、野鳥には含まれません。

[カルガモ]

カモ類は冬によく見られますが、カルガモはいつでも見ることができます。夏に見られるカモはほとんどこれです。春から



カルガモ

夏にかけて雛をつれた姿もよく見かけます。また他のカモ類と違い雌雄同色です。川、池、水田などの水辺にいます。写真のように木の上で休むこともあります。グエツグエツと鳴きます。

[イソヒヨドリ]

普通は海岸や河口にいますが、六甲山系では内陸の川沿いや山間部、住宅地で見ることができます。頭から背中が青、お腹はオレンジ色で



イソヒヨドリ

す。きれいな透き通った声で、ツイッチーと鳴きます。大きさはヒヨドリ位です。なお、ヒヨドリと言う名前がついていますが、全く別の種類です。

[カワウ]

全身は黒色で、嘴は先端がかぎのように曲がり灰褐色、根元は黄色です。湖沼、河川などにおいて、樹上で休んでいることが多いです。グワツ、グワツと鳴きます。ウミウとよく似ていますが、ウミウには緑色光沢があります。鶺鴒のウはウミウだそうです。



カワウ

[イカル]

ヒヨドリよりやや小さい。頭上と尾は黒く、背中やお腹は灰色です。嘴は太く黄色いのが特徴です。だいたい数羽が群れて行動しています。キョキョ、キョウコキーなどと鳴きます。



イカル

[エナガ]

胴体はスズメより小さいですが、尾が長いのが特徴です。頭上は白く頬は黒、背は黒と赤紫色をしています。長い尾で上手にバランスをとって細い枝にぶら下がって木の実や虫を食べます。ジュリリ、ジュリリと鳴きます。



エナガ

[サンコウチョウ]

夏に見ることができますが、暗い林に生息しますので見つけにくいです。雄は、頭部から胸にかけて黒く、背、翼、尾は黒褐色、嘴や目の周りが青色です。胴体はスズメ位ですが、尾が40センチと長いのが特徴です。フィッチ、ホイホイホイと鳴きます。



サンコウチョウ

シリーズ 私のヒヤリハット ③

こうべ森の学校安全衛生委員会では、会員の皆さんからヒヤリハット体験談を募集しています。ちょっとした不注意から大きな事故に至る場合があります。お互いに情報を共有して、森の活動の安全に繋げていきましょう。

ハインリッヒの法則 齊藤 豪

右の図は労働災害の経験則から導き出した「ハインリッヒの法則」を図式化したものです。

1 件の重大な事故・傷害の背後には、29 件の軽微な事故・軽傷があり、さらにその背景には 300 件のヒヤリハット事例 (事故やケガには至らなかったものの、ヒヤリとしたりハットとしたケース) があるとされています。

こうべ森の学校に入学して、初めて森の手入れをしたときは、基本通りに作業していたことと思います。

しかし慣れてくるに従って周囲の状況の確認や声掛けなど作業手順を省略してしまいがちです。

実はそこに重大な事故に至る原因が潜んでいます。向こうで作業している人がいるけど、このくらいの高さの樹木なら、倒れても人に当たらないだろうとか、周り

■東お多福山再生プロジェクト



4月14日 (火) 東お多福山における平成27年度第1回の活動がありました。

作業内容

は昨年刈り残したエリアの全面的な刈り取りでした。

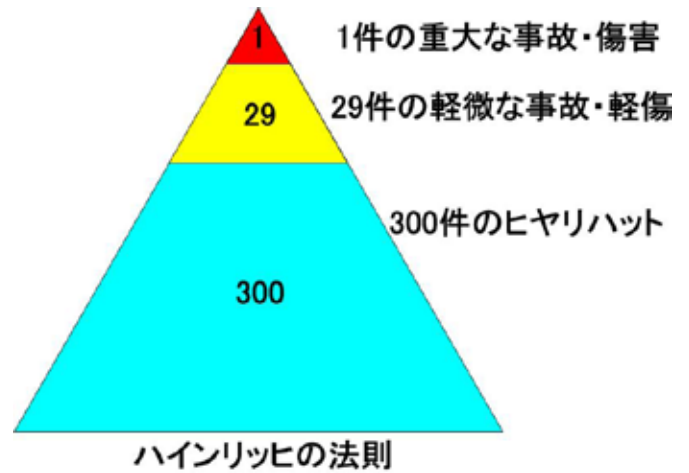
今回の活動から、マスターズゼミ山登りの会が参加することになりました。

また阪神電鉄新任職員ボランティア研修も兼ねて実施しましたので、大きな戦力となりました。

■六甲山森林整備から土砂災害を考えるフォーラム

2月21日相楽園会館にてフォーラムが開催されました。兵庫県立大学 服部保名誉教授、立命館大学工学部里深好文教授の基調講演に続き、兵庫県立農林水産技術総合センターの山瀬敬太郎主任研究員による事例紹介がありました。

六甲山とその周辺で森林整備を実践しているボランティア団体のリレートークで興味深い話を聞いた後、全



に誰もいないから、声掛けはしなくても良いだろうとか、自分勝手な判断をしていませんか。

その時は、幸いにも事故に至らなかったとしても、小さなミスやヒヤリハットが積み重なって行くと、いつかは大きな事故になる可能性があります。

私達はボランティア活動を行っているのですから、ノルマなど一切ありません。

ちょっとした手間を惜しんだために、取り返しがつかない事態にならないよう、時間がかかっても良いので、安全を最優先して作業していただきますようお願いいたします。

時折小雨が降るあいにくの天気でしたが、午前中にコドラートと周辺の刈り取りを完了する



ことができました。昼前から雨脚がきつくなってきたので、午後からの活動は残念ながら中止となりました。

今後の活動日程は次の通りです。

- 5月20日 (水) 登山道整備
- 7月22日 (水) コドラート刈り取り
- 10月 7日 (水) コドラート刈り取り
- 12月16日 (水) ネザサ等の全面刈り取り

員で六甲山の歌を合唱しました。

市民200人が集まり、関心の高さが伺えました。



「森の学校」に出会って

佐脇 遥子



はじめて「森の学校」の月例会に参加したのは、たしか4年前の6月でした。

そのころ私は友だちの亀田さんと一緒に、六甲山縦走の練習のため、ときどき山歩きをしていました。ただ山を歩くだけというのにもちょっと飽きてきたところ

で、何かついでにないかしらと思っていたときに、市の広報紙で「森の学校」の月例会のお知らせを見ました。木を伐りますというところにも惹かれ、おそろおそろ6月の例会にふたりで出てみました。するとスタッフの方々が何もかもを一から丁寧に教えてくださり、木を伐る作業のおもしろさにすっかり夢中になりました。また、ちょうどお昼に手打ちそばのふるまいがあって、その美味しさにも驚いて、「森の学校」はすてきな活動ということが心に刷りこまれてしまいました。

それからはほぼ毎月、ふたりで月例会に参加してきました。私のほうは日ごろの運動不足解消をかねて、たまに平日の活動日に参加させてもらうこともあります。また、東お多福山の根ザサ刈りの活動にも参加させていただき、これまで知らなかったことにいろいろ気づかせてもらうことがたくさんありました。ササが背丈を越えるぐらい高くなり、家の壁がつくれそうなくらいかたくなることも、身をもって知ることができました。活動のたびに、山に咲く花の名前を覚えてもらったり、季節によって移り変わるいろんな植物の有り様を目にしたりすることができ、山の上で気持ちのいい風に吹かれながらお弁当を食べる楽しさも満喫しています。

「森の学校」の活動のたびに、スタッフのみなさんのむだのない動きのカッコよさに目を瞠ります。こちらはいつまでたっても木の種類もろくに見分けられず、

しょっちゅうノコギリの刃を木に噛まれて苦労してばかりですが、スタッフの方々は大きな木もあつという間に伐り倒してさばいておられます。見た目はみなさん、気のいいおっさんたちですが、山にはいってきびきびと動いておられる姿は本当にカッコよく見えます。木の種類や名前はもちろん、鳥の名前もよくご存知で、「あそこにカワセミおるで」とか教えてくれたりします。鳥の巣箱をつくって仕掛け、鳥のはいり具合を調査したりもしているそうです。

「森の学校」に関わるようになって、森の手入れだけでなく本当にいろいろな仕事が行われていることを知りました。苗木づくりもしておられるし、間伐材を使って炭を焼いたりすばらしい木工作品をいろいろとつくったりされています。活動の拠点になっているログハウスの風楽山荘や炭焼き小屋もすべて手作りだそうです。また、東北大震災被災地への息の長いボランティア支援として、この冬も仮設住宅を訪問して大掃除の手伝いなどをしておられるスタッフの方もいらっしゃいました。みなさんものすごいバイタリティの持ち主ばかりで、いつも何かしら働いているように見えます。

以前、山歩きをしていたころは、ついている道歩くだけでしたが、「森の学校」の作業ではどう見ても道ではない斜面などをみなさん平気で歩いていけます。こちらは足をすべらせないようについていだけでも必死ですが、こんなところも通れるのかと思うとちょっとわくわくします。また、4月の山桜、6月ごろのヤマツツジなど本当にきれいな景色に出会えて、街で見る花見とはひと味ちがうお花見ができます。秋の紅葉も再度山は錦のようにきれいです。冬には豚汁やおぜんざいのふるまいもあり、胃袋も大喜びです。四季折々の喜びや美しさを味わいながら、これからもみなさんの端っこにくっついて山の楽しみを分けていただきたいと思います。



平成 27 年 3 月 14 日例会時の集合写真

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
2月15日(日)	69名	安積さん	23名	27名	8名	5名
3月14日(土)	32名	西村さん	(午前)悪天候のため中止 (午後)悪天候のため中止	10名 12名	20名 中止	中止 中止

■参加人数報告

2月の延べ参加者は215名でした。3月の延べ参加者は143名でした。4月～3月までの参加者累計は2,217名となりました。



平成27年2月15日例会時の集合写真

■豚汁のふるまい

2月15日の例会時に恒例の豚汁の提供がありました。

寒い中、具たっぷりの美味しい豚汁に舌鼓を打ちました。



■しいたけ

ログハウス近くの玉切りした木からシイタケが顔をのぞかせていました。大きいものでカサの直径は10cmほどでした。今年は豊作の兆しです。



3月3日木下さん撮影

お知らせ・掲示板

◆バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)は通年運行しております。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

◆摩耶の森クラブ

次回の月例会の開催予定日は(変更の可能性あり)

5月16日(土) 活動場所は摩耶山掬星台

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

◆こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回開催予定日は 4月26日(日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

◆ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 5月9日(土)・6月21日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日も活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記 通勤途中の街路樹の新芽がキュートな今日このごろです。

桜は雨・風で休日にゆっくり鑑賞することができなかったように思います。山の中ではこれからです。

マザーツリーの花、今年の調子はどうでしょう。林床のすみれなども楽しみです。

さわやかな風が吹く林をめざしてがんばります。

(H.F)